

妖精の輪舞曲『ダン・アダン・デリー』  
——ウォルター・デ・ラ・メアの詩の世界——

日時 2021年10月30日(土) 14時

場所 妖精ミュージアム 同フロア会議室1・2

講師 井村君江(妖精ミュージアム名誉館長)

(1)ウォルター・デ・ラ・メア(Walter de la Mare 1873-1956)

ケント生まれ、詩人、小説家、父の第二の妻が、詩人ロバート・ブラウニングの末裔。

\*耳を澄ます人(Listner)知らぬ人(Stranger)旅をする人(Traveller) 夢見る人(Dreamer)

——Impossible she(捉え難いあの人) 原初的で普遍的な美・夢・理想(アニマ)。

古代の夢の堆積、祖先、求めてやまぬ理想の具体化——プラトン Ideal Beauty

\*「子供の心を失わない大人」の詩童話「赤い鳥」鈴木三重吉、「童謡」「母謡」西條八十。

幻想的、浪漫的、想像的——伝説、神話、昔話(夕暮れ、月夜、森、海、廃墟、庭園)。

(2) デ・ラ・メア詩集

『ダン・アダン・デリー』(1922、5番詩集)、『ピーコック・パイ』(1913)、『楽しいイギリス』

(1952) 22冊詩集。ホラー、探偵もの、恐怖、『死者の誘い』(The Return,1910)

「妖精たち」(Fairies)「魔女と魔術」(Wiches and Witchcraft)夢の世界(The World of Dream)。

一日の最後の色どりの

燃える色彩がしだいに薄れていくと、

冷たく寂しい廃墟のあたりには

コオロギがしきりに啼きたてる石から石へと

すると黒ずんだ緑の上に散っていく

妖精の群れが見えるだろう

ギリギリスのようにキチキチと啼ききながら

アザミの綿毛が踊るまわりを妖精の足は踊る

やがて大きな金色の穏やかな月が

妖精たちの小さなドングリの靴を染めていく。

(「廃墟」)

(3) 西條八十(「歌を忘れたカナリア」象牙の船に銀の櫂、月夜の海に浮かべる)

\*大正14年西條八十『白孔雀』、江戸川乱歩、佐藤春夫、三好達治等影響を受ける。

「この世は夢、夜の夢こそ真なれ」(てんぶら屋おかみ宛、乱歩) デ・ラ・メアの言葉。

\*飯沢匡作「ヤン坊ニン坊トン坊」NHK連続テレビ(トン坊黒柳徹子)、『猿王子の冒険』。

(Three Royal Monkeys、Mulgar Malgar ティシュナー) パメラ・ビアンコ『フローラ』1920

(4) 妖精の分類

(イエイツ分類) ノーム、ドワーフ、ピクシー、ロブリ・バイ・ザ・ファイアー；水の精  
「誰かが私の家に来てちいさな扉を叩いている----でも静かな暗い夜の中には動くものなど  
何もなかった」

デ・ラ・メア創作の妖精——メルミロ(暗い森でダンス) 魔術、夢、樹木。

目に見えぬ、美しい、憧れの、遠い、妖精や神秘的な、夢の魔術的な存在。